

## 【第2回】資産形成の基本

——「長期・積立・分散」でお金を育てる

**前**回は、資産形成の前提となる「生活設計・家計管理」の重要性について取り上げましたが、今回は、資産形成の基本となる考え方、「長期・積立・分散」についてです。

投資は短期で利益を狙うものではなく、時間を味方につけるほどリスクが平準化され、成果が安定すると言えます。積立投資のように一定額を定期的に購入する方法は、価格が高い時は少なく、安い時は多く買うことで平均購入単価を下げる効果が期待できます。さらに、特定の資産に偏らず、複数の資産や地域に分散することで、一部の資産が値下がりしても全体の振れを抑えることができます。

また、長期で積み立てるメリットとして「複利」の存在も見逃せません。運用益を再び運用に回すことで、利息が利息を生む循環が生まれ、時間とともに資産の増加が加速する可能性があります。短期間で結果を求めず、時間をかけてコツコツ積

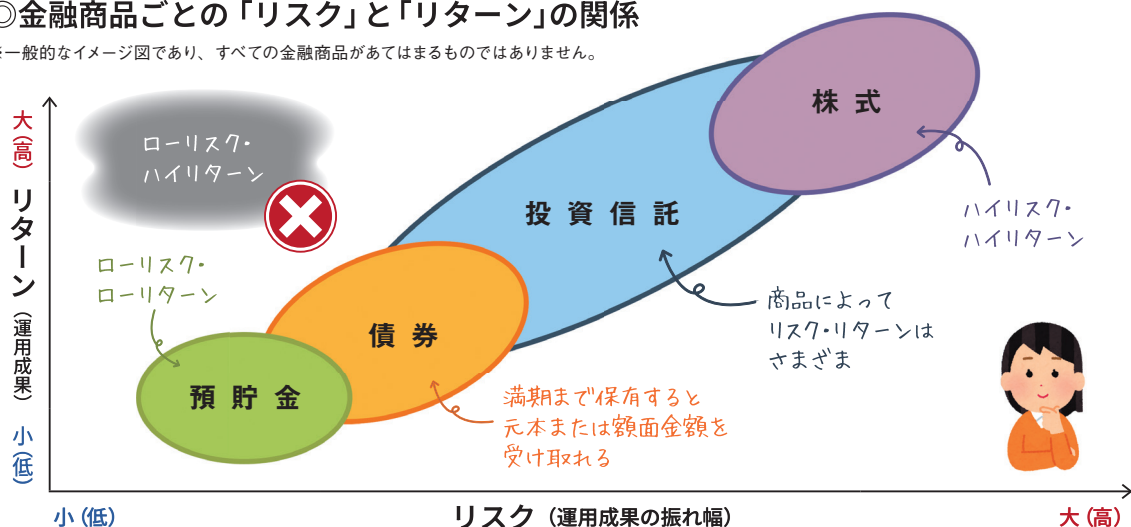
み立てる姿勢が重要です。

投資には当然リスクが伴いますが、リスクとは将来期待される運用成果(リターン)の「振れ幅」であり、損をする可能性だけを指すものではありません。むしろ、どこまで値下がりかを許容できるかという自身の「リスク許容度」を把握し、適切な運用方法を選ぶことが重要です。リスクとリターンは比例関係にあり(図表)、「ローリスク・ハイリターン」の金融商品はありません。正しい理解が、過度な不安や甘い誘いに流されないための備えにもなります。

一口に資産形成といっても、現在の状況やライフプラン、リスクへの考え方は人それぞれです。自分だけで考えるのではなく、専門家などに相談するのもよいかもしれません。資産形成は長い取り組みだからこそ、正しい知識や信頼できる助言を上手に取り入れながら、継続していく姿勢が大切です。

### ◎金融商品ごとの「リスク」と「リターン」の関係

※一般的なイメージ図であり、すべての金融商品が当てはまるものではありません。



J-FLECのホームページでは、皆さんの生活に役立つ、お金に関するさまざまな情報を掲載しています。

<https://www.j-flec.go.jp/>

J-FLEC

検索

